

序

概して治水・利水をめぐる地域問題の意識は、人によって違っている。

我国は年々台風や河川の洪水による多様な自然災害に悩まされている。昨今、都市・農村地域には、都市化にもなつて混住地域が形づくられている。同時に地域の独自の自然的、人文的条件に応じて、水に対する固有の制御様式が見られる。とくに都市生活の環境の中では、廃水・汚水処理・断水・水の管理組織など、深刻な社会問題が現実化されてきている。

我が国では、時代の流転の中で、豊かな水資源の開発と地域住民の生活との関連づけから、さまざまな治水・利水体系の論議が要請されてきた。他方、中国ではどのような治水・利水の事態が見られるか、昨夏（昭和六十一年）筆者は、蘭州市での中国歴史地理学会「シルクロード」のシンポジウムに参加した。その巡検の折りに、黄土の丘陵地に大きなモーターで黄河の流水を引きあげ、スプリング式の散水景観を展望した。そのときの印象はいまだに強烈に残っている。これは乾燥地域における近代的な灌漑体系の進歩と発展を如実に物語っている。このように日中両国では、水と生活との関連づけが、自然・社会のあり方いかんによって影響されていることが裏付けられる。

本学会では、昭和六一年四月第二九回大会において「治水・利水の歴史地理」を共同課題として研究発表が行なわれた。本紀要は、その時の共同課題と一般発表のうち八篇を収録したものである。これらの内容は、時代・地域別に応じて、各執筆者のイメージとアプローチにもとづき、考古・風土記・地名・絵地図・中世・近世文書類などの史料・資料を参照にして、その吟味・検討を加え、地域の治水・利水に関する地域課題を論考したものである。

なお、本紀要の刊行にあたっては、財団法人畠山文化財団から多額な助成金を賜わったことを付記し謝意を表したい。

一九八七年二月

細井淳志郎